

読書のすゝめ

その6 H 30 4 / 17

新任の先生紹介⑥

石井玲子先生（3年3組副担・国語）



『ひとりでは生きられないのも芸のうち』

内田 樹（文芸春秋）

日頃、なかなか、読書をするまとまった時間がとれません。そのため、家のあちこちの場所に分散して本を置き、家事の合間や就寝前に、何冊も平行して少しずつ読んでいます。あまり新しい本ではないのですが、これはその中の一冊です。



自分の身近で起こっている出来事（結婚のこと、家族のこと、仕事のこと等）について、疑問に感じていることを、グローバルな視点でわかりやすく説明してあります。最近では、ニュースや新聞などもわかりやすい解説文が多く見られますが、内田氏の語りは、鹿島茂氏の解説の言葉を借りれば、「（彼の）生活に裏打ちされた」、「町場の思想が含まれて」おり、そこに共感を感じます。読んでいると、遠い世界の大きなニュースと自分の日常の出来事が「こんな風に繋がっているんだ。」と、謎が解けたような気がしてきます。



金澤正典先生（1年1組 担任・農業）



『トラクターの世界史』藤原辰史（中公新書）

テレビ番組で紹介されていたので、また元々農業機械が好きな機械が好きなのは読んでみてみてください。



斉藤浩世先生（福祉）



『人生の質を高める12の習慣』ワタナベ 薫（大和書房）

3年前の夏、この本を購入する前に原因不明の全身じん麻疹にかかりました。「このままの状態がいつまで続くのか」と自問自答し、不安な毎日が続きました。じん麻疹が治りかけた頃、書店でたまたま目にして、題名と素敵な女性の写真の表紙に惹かれ購入しました。「自分がどのように生きていきたいか。どんな毎日を送りたいのか。すべては自分が考えることから始まります。」

私はこの本を読むことがきっかけで、人生について改めて考えることができました。

鈴木裕之先生（農業）



『医者いらず』の食べ物事典』石原結實（PHP文庫）

普段、何げなく食べているその食事。食事の中の野菜について、あなたはどこまで知っていますか？

野菜の役割を知ってください。

「食べること＝生かされていること」

「いただきます＝命をいただきます」の大切さに気づいてください。

